

## 平成 22 年度 学部入学式告辞

新入生諸君，入学おめでとう。今年も一昨年，昨年に引き続いて 3 年連続で校内の満開の桜が君たちの新しい門出を祝っております。また，香川大学の教職員と在学生一同は君たち 1,344 名を心から歓迎いたします。

君たちは今日から香川大学生です。大学生としての自覚を持って行動してください。大学は，学問をする場であります。学問をする場は，本来自主性と自律性が尊重されるものであり，その意味からも学生である君たちにも自主性と自律性が求められます。大学は諸君らをおとなとして扱います。大学は，君たちに精神的な意味での自立を求めています。

大学生活での困ったことや辛いことに対しては，君たち自身で対処し，解決するように努力してください。そして，できるだけ自分自身の力で乗り越えてください。若者にとって，悩んだり，転んだり，場合によっては傷ついたりするのは，決してマイナスばかりではありません。そのような経験をした人は，立ち上がると必ず強くなります。困難を乗り越えることによって君たちはひとりの社会人として自立し，大きく成長します。また，父母の方々にもお願いします。お子様が自主性と自律性を持ったおとなになるための協力をお願いします。

香川大学には，700 名近い先生方と 1000 名ほどの事務系職員がいます。このような方々が君たちの勉学と学生生活を支えてくれます。自分だけでは対応できないと思ったときには先生や職員に相談してください。君たちの勉学や大学生活を支援するスタッフやシステムが香川大学には整備されています。君たちが助けを求めれば必ず君たちの力になってくれます。

さて，君たちは厳しい受験競争を戦ってきました。大学に入ったのだから，これからはゆっくり遊んでやろうと思っている人もいるかも知れません。しかし，大学での勉強である学問はこれから始まります。受験競争ではどれだけ多くの知識があるかを，問うことが中心になっています。その知識の量を偏差値として表していま

すが、21 世紀の社会が君たちに期待している能力は偏差値で評価できるようなものでは決してありません。偏差値がたとえ人より高かったとしても誇るべきことでもありませんし、たとえ低かったとしても卑屈になる必要はまったくありません。21 世紀の社会は、君たちに「何を知っているのか」を問うのではなく、君たちに「何ができるか」を問うでしょう。

これからの社会では、自立したひとりの人間として、社会で力強く生きていくことが求められます。今申し上げた「自立したひとりの人間として、社会で力強く生きていく力」、これを私をはじめ多くの人たちが人間力と呼んでいます。この人間力という言葉の定義は定まっておらず、人によってさまざまです。私のいう「人間力」は、知力、実践力、社会力の 3 つの要素からなっています。その最初の要素である知力は基礎学力と専門知識、論理的思考力、創造力からなっていると私は考えていますが、受験時代に躍起になっていた偏差値は、基礎学力の一部の指標に過ぎません。言い換えれば、偏差値は、実際の社会で求められる人間力の一要素である知力の一部をみているに過ぎません。

専門知識、論理的思考力、創造力はこれから君たちが接する学問を通してその能力を養うものであります。さらに、判断力やチャレンジ精神に代表される実践力はこれからの勉学や課外活動を通して習得していくものであり、コミュニケーション能力や協調性、国際性に代表される社会力はまさにこれから君たち自身が習得していかなければならないものであります。したがって、偏差値は私の言う人間力の指標としては小さい意味しか持っていません。

偏差値に対する意識を今日からはっきり捨て去り、明日から接するであろうさまざまな分野の学問や課外活動を通して人間力の養成に努めてくれることを強く願っています。

アメリカ在住の世界的に著名な学者が、最近の日本からの留学生について次のようなことを書いておられました。日本から来る最近の留学生は専門的知識は十分であり、英語もうまい。しかし、アメリカ人とコミュニケーションすることができ

ない人がでてきた。日本人同士でも協調したり、気持をかよわすことができない人がある。彼らは子供のときから勉強してよい成績を取れば他のことは何もしなくてよいと言われて育ってきたのではないか。したがって、周囲の人たちの世話をしたり、友達と一緒に何かをやることは自分の仕事でないと思っているように見える。こんなケチな人間は社会の役に立てないと、書いておられました。さらに、彼らに欠けているのは、人間としてタフでないことと人間としてのモラルを持っていないことだとも付け加えておられました。

このような話は、先ほど、私が人間力の一要素としてあげた社会力、より具体的に言えばコミュニケーション能力や公共心、協調性が研究者の社会においても学問的能力よりも優先して求められていることを示しております。

さて、日本の社会では、経済危機からの脱却に未だ至っておらず、明るい明日を感じる状況にはありませんが、一方では少子高齢化が急速に進みつつあります。低炭素社会への期待も高まっていますが、世界的な規模で産業が動揺する中、我われの生活基盤も大きく揺らいでいます。また、情報通信技術の革命は、学術研究や経済活動にきわめて大きな効果を及ぼしましたが、世界の人たちの社会生活を一変させ、これからの世界の政治状況にも大きく影響するようにも思えます。いずれにしても、21世紀の社会では今までとまったく違う地殻変動のようなものが動いているように感じられます。地域社会はもとより世界に向けた人材養成を担う香川大学として、これからの社会において中核となって活躍できる教育をしっかりしていきたいと考えています。

今日ここにいる君たちは、まさにグローバル化がますます進む21世紀の社会の中核を担う世代であります。そこで、私は君たちにぜひ「たくましい香大生」に成長してもらいたいと願っています。「たくましさ」のなかに健康や体力が含まれることは当然であります。知的活動やその成果を実践する場合には健康と体力が求められるでしょう。学内には数多くの課外活動のクラブ等があり、活発に活動しています。君たちの健康や体力養成だけでなく、協調性などの素養を育てるためにも課外活動は有効であると考えています。君たちの活発な課外活動を

期待しております。

また、「たくましさ」は肉体だけを鍛えても得られるものではなく、健全な精神を伴わないとその力を発揮しません。健全な精神とは、人徳、品格、品位をさしていると考えてもよいでしょう。したがって、「たくましさ」には人徳や品格、品位をみかくことが求められます。心の豊かさや人からの信頼とも言える人徳や品格を高めるよい方法の代表は本を読むことです。1ヶ月に何冊と目標を決め、読書を習慣付けてください。必ず成果は出ます。さらに、人間関係やコミュニケーションの場において、へこたれない忍耐力も「たくましさ」に必要な素養であると思っています。私自身の研究経験からも、忍耐力や粘り強さがものごとを成功に導くために重要であると実感しております。

われわれ教職員は君たちを全力で支援します。君たちが自分自身で誇れるような大学生活を送り、本学での学生生活を通して、「たくましい香大生」になってくれることを期待しています。

平成 22 年 4 月 4 日

香川大学長 一井 眞比古